

3-5

誤嚥性肺炎予防

5回食

経口摂取維持への挑戦

「食べる楽しみ」と「飲み込む苦しみ」のはざままで

特別養護老人ホーム 三ノ輪

発表者：神谷 類、佐々木 拓也	共同研究者：菊谷 武
所在地：台東区三ノ輪 1-27-11	
TEL：03-5603-2231	E-mail：t-minowa@tctv.ne.jp
FAX：03-5603-2232	URL：http://minowa-welfare.web.infoseek.co.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	台東区社会福祉事業団が母体である三ノ輪ホームは平成6年開設、4名の短期入所者を含め67名の方が入居されています。駅から徒歩1分的好立地にある三ノ輪福祉センター内にあります。2階にはレストランがあり、入居者の方も常連です。
----------------------------	--

<取り組んだ課題> 摂食機能障害のため、誤嚥性肺炎発症のリスクが高い入居者に5回食を提供し、経口摂取を維持する。 <具体的な取り組み> 1. 口腔ケアカンファレンス（他職種が参加）を行い、入居者の摂食機能評価を行う。 必要に応じ、歯科医師が嚥下内視鏡検査を行う。 2. 嚥下内視鏡検査の結果により、誤嚥性肺炎発症のリスクが高い入居者に5回食を提供する。 《5回食とは》 1) 目的：半固形濃厚流動食を1日5回提供することにより1回の食事量を減らし、誤嚥のリスクを減らす。 2) 方法：①1日に必要な栄養（半固形濃厚流動食）と水分を5回に分けて提供する。 ②半固形濃厚流動食は形状の安定を図るため既成の食品を提供する。 ③半固形濃厚流動食と水分（とろみ付き）とを交互に摂取していただく。 ④食後看護師が吸引をする。 2) その他、口腔ケアカンファレンスで決めた以下のことを徹底する ・水分はトロミ剤を均一化する ・食事時間の管理 ・食事姿勢、スプーンのサイズ	<活動の成果と評価> 5回食を導入することにより、経口摂取が困難な複数の入居者が経口摂取を維持している。 1. Hさん：平成18年3月肺炎で入院。5回食摂取後入院はしておらず、現在も5回食を続けている。 2. Uさん：平成20年7月誤嚥性肺炎で入院したときに医師から経管栄養の話がでたが、現在も5回食で経口摂取を維持している。 3. Mさん：平成19年8月～12月誤嚥性肺炎で入院したときに医師から経管栄養の話が出たが、平成21年7月誤嚥性肺炎で入院するまで、5回食で経口摂取していた。 以上のことから、誤嚥性肺炎発症の予防に、5回食は有効であるといえる。 <今後の課題> 1. 5回食の定時提供 2. 吸引の確実な実施 3. 誤嚥性肺炎発症のハイリスク者の早期発見 <参考資料> 「介護のための口腔ケア」 （日本歯科大学 菊谷武准教授著）
---	--

【メモ欄】